



浪花百景「天保山」

天保山のおはなし 第二話

庶民の行楽地としてにぎわっていた天保山。

しかし、その状況は嘉永7年(1854年)に一変します。鎖国を行っていた日本に開国を求めて、ロシアの軍艦「ディアナ号」が天保山沖にやってきました。



ロシア国船之略図

天保山周辺の警備に当たるため、各藩から総勢1万5000人が動員されました。また、突然現れた異国船に驚いた町の人々が「恐ろしさ半分、珍しいもの見たさ半分」で天保山周辺に押し寄せるなど、大坂の町は騒然となったそうです。この出来事は歴史的に有名な黒船・ペリー来航の翌年のことです。

その後、危機感を募らせた幕府は湾岸の警備を固めるために、天保山の松や桜を切り払い山を削って砲台を据え台場を築きました。そのため、行楽地として親しまれてきた天保山の面影はすっかり失われてしまいました。明治元年(1868年)には、明治天皇の大阪行幸に際して天保山沖で各藩の軍艦を集めた艦隊演習が行われ



富士の巻狩陣取図

れその様子を天保山から視察されました。

天保山公園入り口からまっすぐ進むと、天皇の観艦を示す記念碑が建っています。



昭和4年建立